

# 月次県内経済

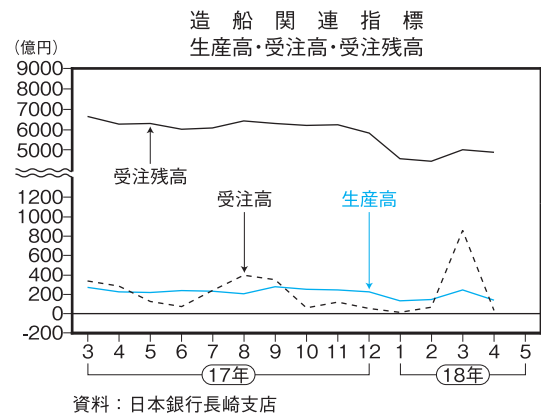
## 概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

<6月>生産面では大手・中堅造船は一部で操業がやや弱含み、重電機械は堅調、電子部品は増勢。需要面では、公共工事請負金額は増勢、新設住宅着工戸数は底堅い。個人消費では大型小売店販売額は弱含み、乗用車（登録車）販売台数は増勢一服。観光面は、主要観光施設の入場者数は堅調推移。雇用面では有効求人倍率が1.2倍台と人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。7月入り後は、豪雨の影響が一部にみられるものの、生産・投資は底堅く、観光面では持ち直しが続く。

## 造船 一部では操業やや弱含みも、中小は堅調

**大手・中堅造船**では、一部の船種に新造需要回復の兆しがみられるものの、価格面での競争は引き続き厳しい模様。生産面では、受注残の減少が続くなか一部では操業度がやや弱みで推移。

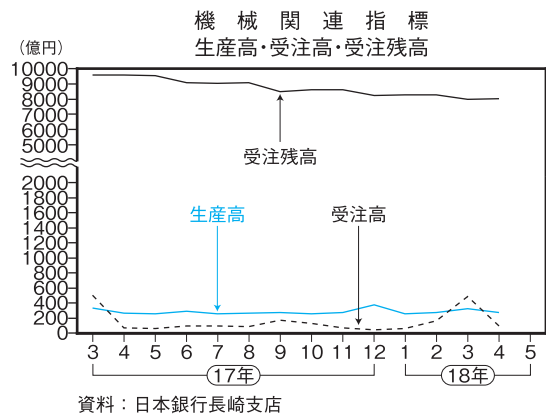
**地場中小造船**では、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。



## 機械 重電機械は概ね生産堅調、電子部品は増加継続

**重電機械**では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は国内外ともに受注が弱含みで推移している。電動機は比較的高めの受注残を背景に一定の操業を維持している。列車空調装置は高水準の受注残を維持。

**電子部品**では、海外との競争など厳しい環境ながら、生産増加継続。



## 小売商況

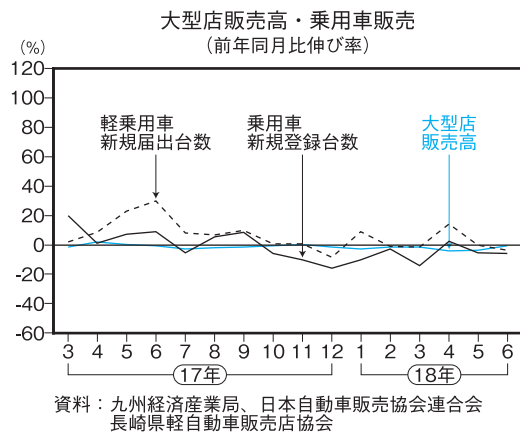
### 概ね横這い圏内も弱含みの動き

小売商況をみると、6月の県内大型小売店販売額は、前月に続き前年割れ。乗用車販売は登録車、軽乗用車とも前年を下回り、サービス消費面の旅行取扱高も小幅減。なお、7月度の大型小売店等の売上げについては大雨や台風、記録的な猛暑などの影響から軟調推移。

6月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー35店、九州経済産業局調べ）は83億円、前年同月比0.6%減（同一店舗比較）と7カ月連続のマイナス。品目別では、飲食料品が0.3%増となったものの、衣料品は、主力の婦人服等が1.4%減、紳士服・洋品が4.0%減、身の回り品も1.3%減となるなど全体では2.3%減。このうち百貨店では、セールの前倒しもあって衣料品や雑貨が伸びたものの身の回り品、食料品などが伸びず。スーパー・大型店等では、インバウンド客増もあってドラッグストアの好調が続き、コンビニも堅調な売り上げが続いている。

乗用車販売では、6月の**新規登録台数**は1,900台、前年同月比5.8%減と2カ月連続のマイナス。うち普通車は3.2%増の962台、小型車が13.5%減の938台。また、軽乗用車は1,712台、3.5%減となり、2カ月連続の減少。軽を含む総販売台数では3,621台、4.7%減となり2カ月連続で前年を下回った。

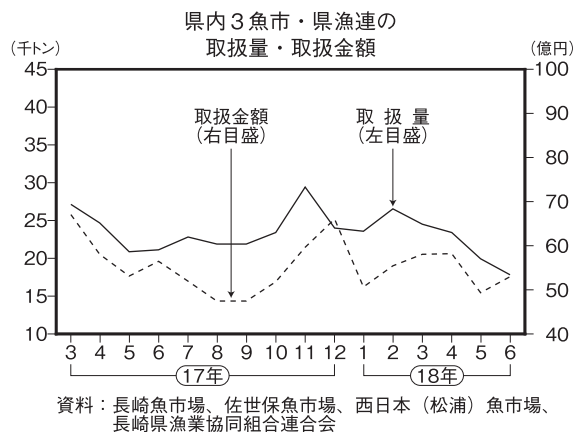
サービス消費面では、6月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が、前年同月比1.7%減となり、2カ月連続のマイナス。うち、国内旅行が3.6%増で2カ月振りのプラス、海外旅行は13.9%減となり3カ月連続のマイナス。



水産 取扱量、金額ともに減少

6月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況をみると、**取扱量は1.8万トン**、前年同月比15.8%減、**取扱金額も53億円**、同6.1%減となり、このところ前年割れの傾向となっている。

また、魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比29.1%減少し、単価も3.0%下落、金額は31.3%減少した。一方、サバは数量が同64.7%増加となり、単価が3.1%下落したものの、金額は59.6%増加した。

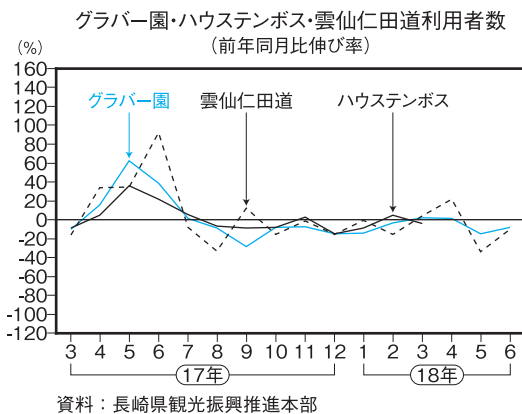


観光 主要施設の入場者数は減少するも底堅く推移

6月の県内観光をみると、主要観光施設の入場者数は、前年の熊本地震の影響が剥落して大幅増となった反動から前年を下回った。

**主要観光施設等**（13施設）の入場者は403千人、前年同月比13.2%減少した。地区別にみると、県南地区は前年にスタジオジブリの企画展が開催された長崎歴史文化博物館（69.7%減）が7割減となり、グラバー園（7.9%減）と長崎原爆資料館（10.8%減）も減少した。また、島原半島ではリニューアル工事を終えた雲仙岳災害記念館が2倍強となったものの、島原城（6.8%減）と雲仙仁田道（10.1%減）は減少した。一方、県北地区ではハウステンボスと九十九島パールシーリゾート（8.0%増）、平戸城（15.9%増）はいずれも増加。離島地区も、世界文化遺産への登録勧告があった「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に関連して堂崎天主堂（41.2%増）が4割超と大きく増加、一支国博物館（5.0%増）と万松院（21.4%増）もともに増加した。

また、各観光協会の調べによる雲仙・小浜の宿泊客数をみると、雲仙地区が13千人、前年同月比14.5%減となり、小浜地区も7千人、同16.5%減少した。



## 公共工事

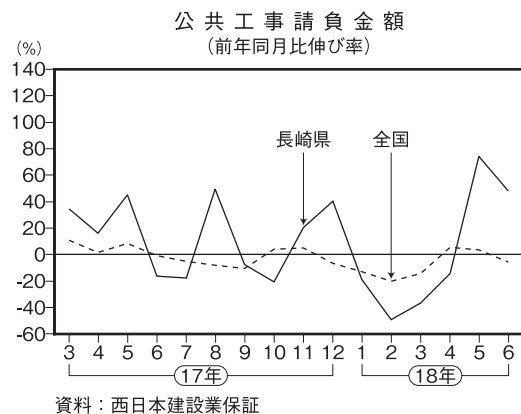
### 請負金額、増勢続く

6月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は395件、前年同月比0.8%減となり2カ月振りの減少、**請負金額**は203億円、同47.9%増と2カ月連続で前年を上回った。

6月の主要発注者別の**請負金額**では、「国」（12億円、30.3%減）と「県」（39億円、10.6%減）が減少したものの、「市・町」（101億円、54.1%増）は高い伸びとなった。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、田平地区（45億円、2.4倍増）、長崎地区（43億円、2.5倍増）、島原地区（41億円、3.2倍増）など7地区。一方、諫早地区（18億円、62.6%減）など3地区で前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、日本遠洋旋網漁業協同組合発注の「松浦第一製氷冷凍工場新築工事（第一期）」（25億円）、島原市発注の「島原市庁舎建設工事」（21億円）など。



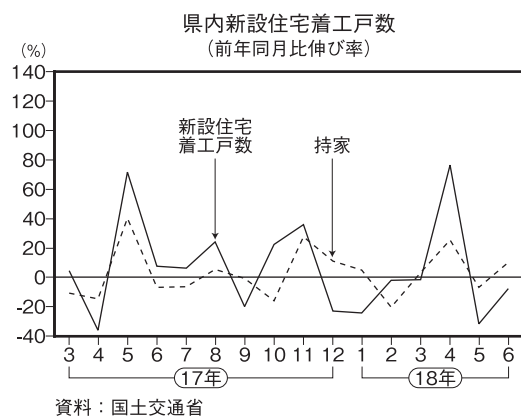
## 住宅建設

### 堅調に推移

6月の**新設住宅着工戸数**は560戸、前年同月比では7.6%減ながら、引き続き堅調な推移となっている。

利用区分別にみると、持家が265戸、10.0%増となったが、貸家（257戸、22.8%減）と分譲（31戸<うちマンション0戸>、3.1%減）は前年を下回った。

主な市郡別（県建築課調べ）では、前年実績を上回ったのは佐世保市（121戸、45.8%増）、諫早市（113戸、126.0%増）、島原市（16戸、4倍増）など5市郡。一方、前年を下回ったのは大村市（123戸、13.4%減）、長崎市（104戸、52.9%減）、西彼杵郡（21戸、4.5%減）など10市郡。



雇用 緩やかな改善傾向続く

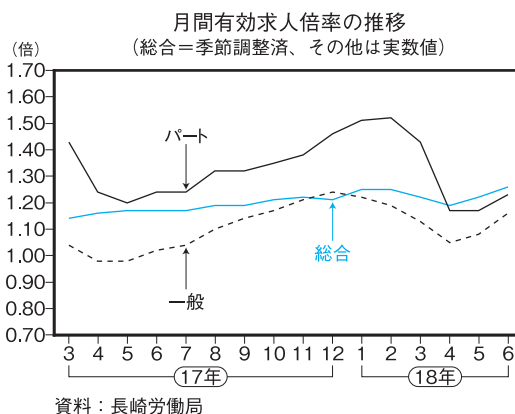
6月の県内の**有効求人倍率**（季節調整済）は前月を0.04ポイント上回る1.26倍。また、全国の有効求人倍率は前月を0.02ポイント上回る1.62倍であった。

**新規求人数**は10.8千人、前年同月比0.8%増となり、2カ月連続の増加となった。形態別では、一般求人が1.8%増と3カ月連続の増加、パート求人は0.5%減と2カ月振りの減少。主な業種別にみると、サービス業（19.0%増）、医療・福祉（9.5%増）では前年を上回ったが、卸売・小売業（9.5%減）、飲食店・宿泊業（8.6%減）、建設業（6.2%減）などでは前年を下回った。一方、**新規求職者数**は5.5千人、前年同月比12.7%減となり9カ月連続の減少。形態別では、一般求職者が16.4%減、パート求職者は6.3%減であった。

また、**有効求人数**は28.3千人、前年同月比1.2%増となり2カ月連続のプラス、一方、**有効求職者数**は23.8千人、6.4%減と6カ月連続で前年を下回った。

**就職件数**は2.5千件となり前年同月比10.7%減。また、**雇用保険受給者実人員**は4.9千人、前年同月比8.6%減となった。

県内の雇用データを見ると、緩やかな改善傾向が続いている。



企業倒産 件数・金額ともに低水準が続く

7月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比2件増の4件となり、6カ月連続して前年を上回るも、14年11月以降、45カ月連続で一桁台となるなど低水準で推移している。

一方、**負債総額**は5.9億円と、小口倒産しかなかった前年同月に比べ5億円増となるも、低水準が続く。

倒産件数を業種別にみると、サービス業が2件で、建設業と運輸業が各1件ずつ。また、その倒産原因は全て「販売不振」。

